

2023.10.24

神奈川県高齢福祉課  
(高齢福祉グループ)

## パートナーミーティング



@kandoukaigo



認知症オレンジパート  
ナーネットワーク



認知症オレンジパート  
ナーネットワークウェブサイト



# 高齢化と認知症の現状

～国や県の施策～

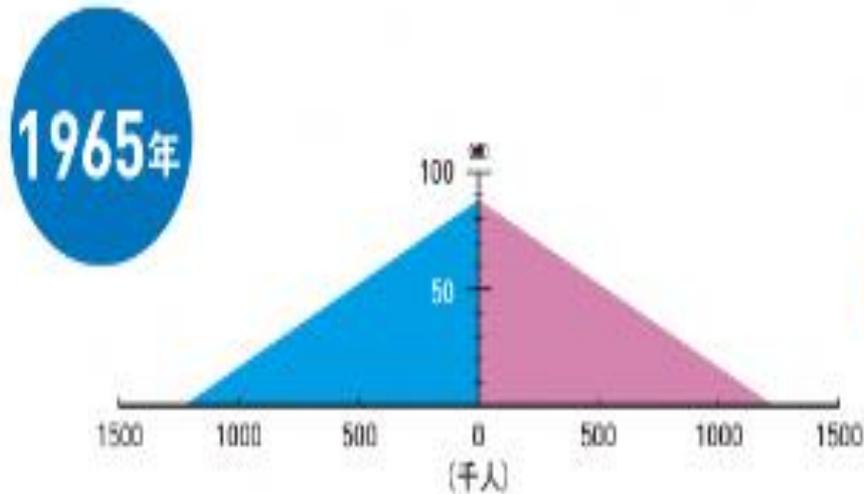


神奈川県  
認知症の人と家族を支えるマーク



# 高齢化とは

【日本の人口ピラミッド】 ■ 男性 ■ 女性



「胴上げ型」



65歳以上1人に対して、20~64歳は9.1人

出典：総務省「国勢調査」社会保障・人口問題研究所  
「日本の将来人口(平成24年1月推計)、厚生労働省「人口動態統計」

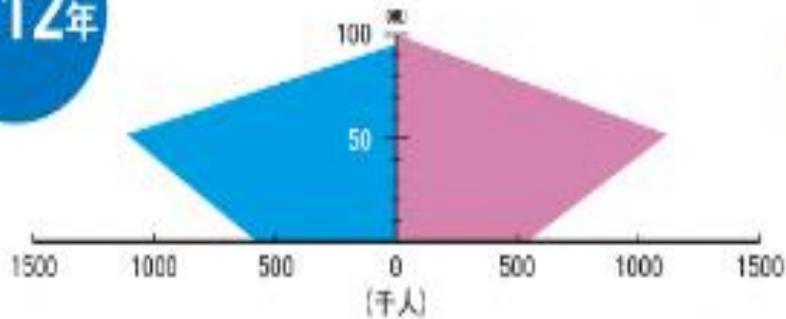
神奈川県  
認知症の人と家族を支えるマーク



# 高齢化とは

【日本の人口ピラミッド】 ■ 男性 ■ 女性

2012年



「騎馬戦型」



65歳以上1人に対して、20～64歳は2.4人

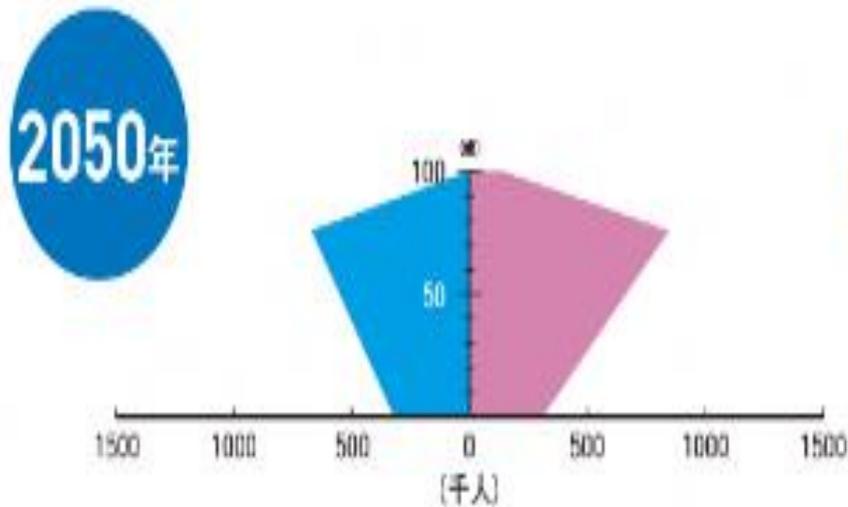
出典：総務省「国勢調査」社会保障・人口問題研究所  
「日本の将来人口(平成24年1月推計)、厚生労働省「人口動態統計」

神奈川県  
認知症の人と家族を支えるマーク



# 高齢化とは

【日本の人口ピラミッド】 ■ 男性 ■ 女性

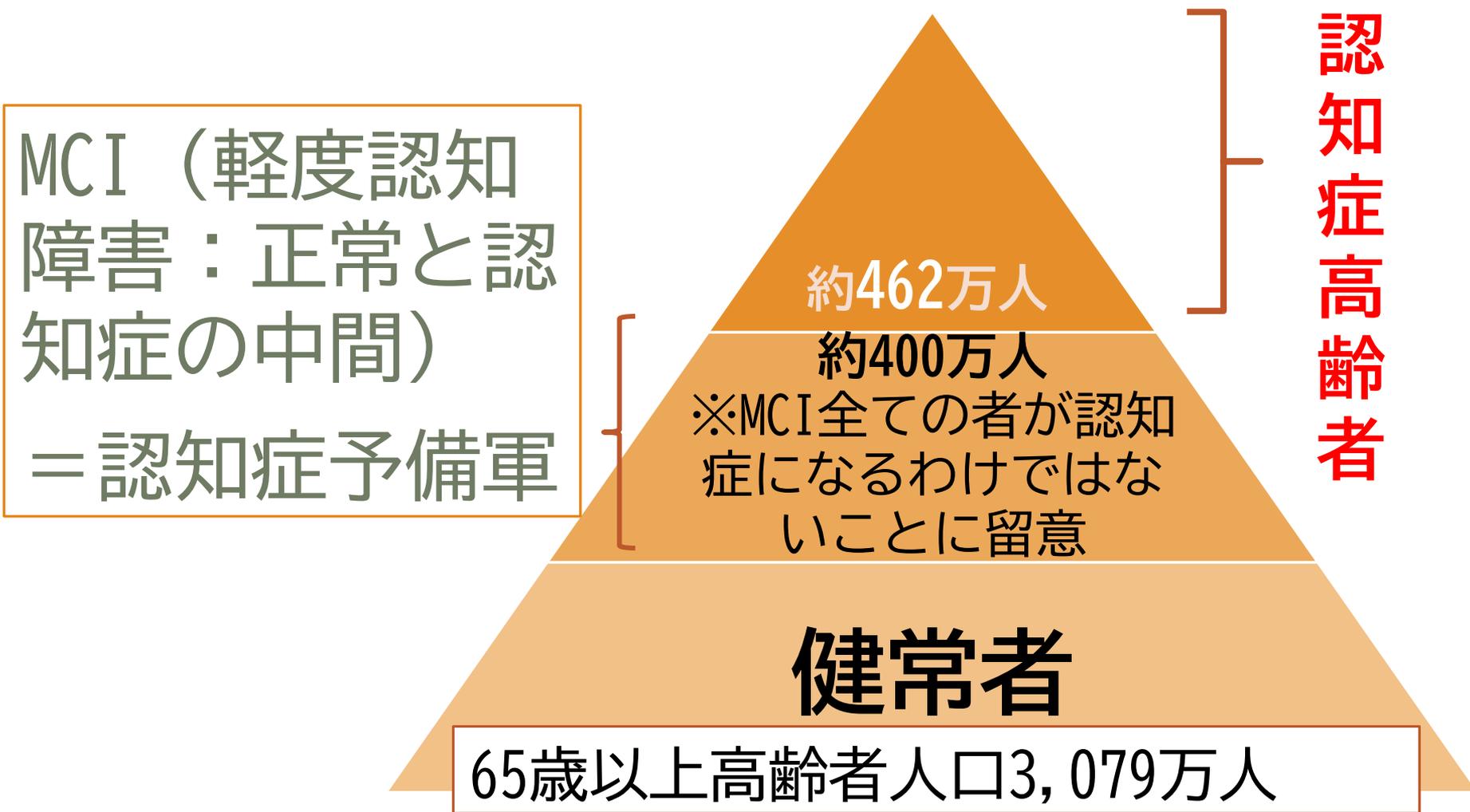


出典: 総務省「国勢調査」社会保障・人口問題研究所  
「日本の将来人口(平成24年1月推計)、厚生労働省「人口動態統計」

神奈川県  
認知症の人と家族を支えるマーク



# 国の認知症高齢者の現状（2012（平成24）年）



# 国の推計によると…

2012（平成24）年には、462万人が認知症  
（65歳以上高齢者のおよそ7人に1人）

※MCIの人を含めると…

高齢者のおよそ4人に1人が認知症あるいはその予備軍

2025年（令和7年）には、700万人が認知症  
（65歳以上高齢者のおよそ5人に1人）？

参考：「日本における認知症の高齢者人口の将来推計に関する研究」（平成26年度厚生労働科学研究費補助金特別研究事業 九州大学二宮教授）より内閣府作成



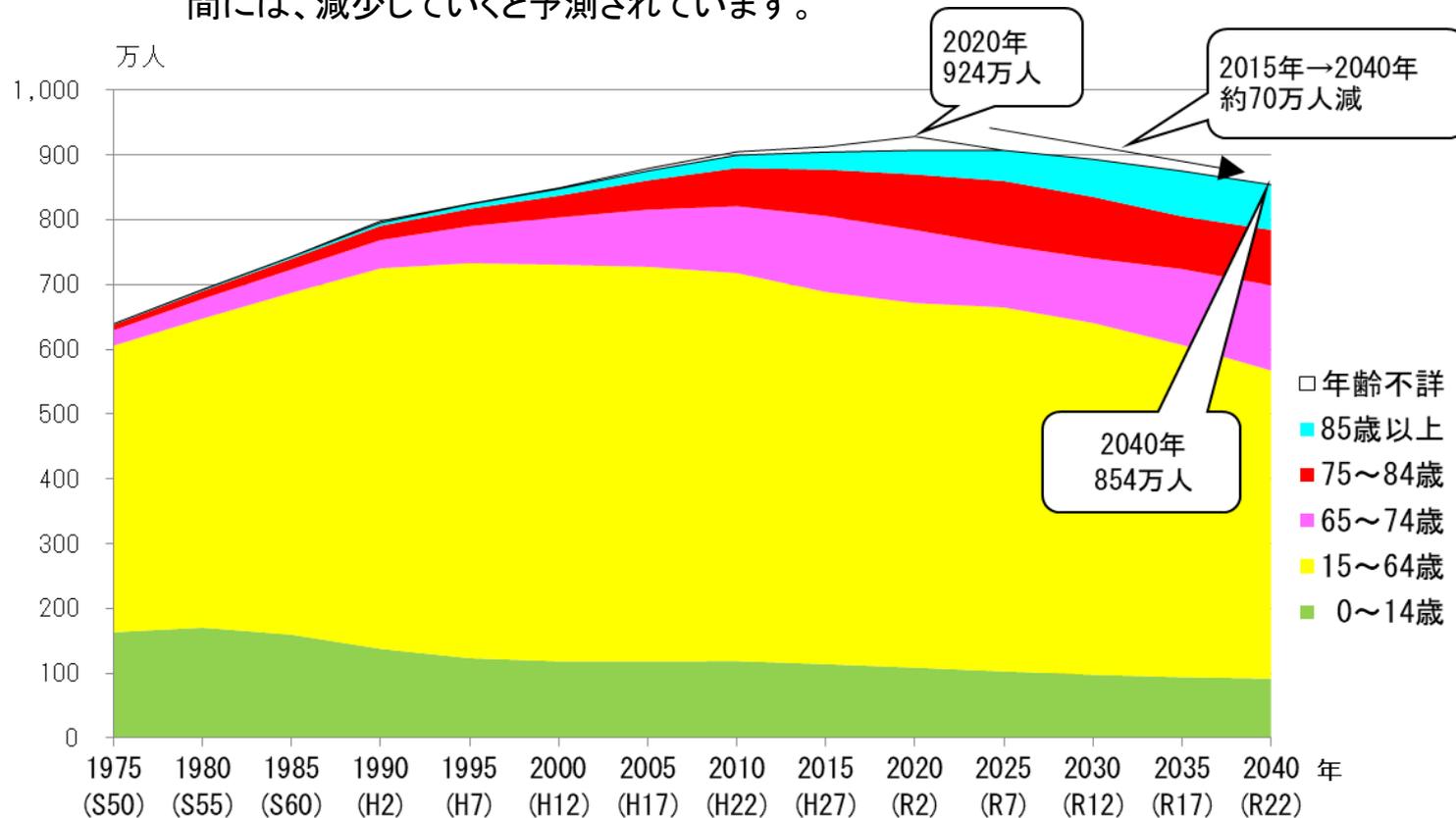
神奈川県  
認知症の人と家族を支えるマーク



# 神奈川県の実況

## 総人口の推移

2020（令和2）年の国勢調査では約924万人でしたが、その後、2025年までの間には、減少していくと予測されています。



注1 2020(令和2)年までは、国勢調査による。

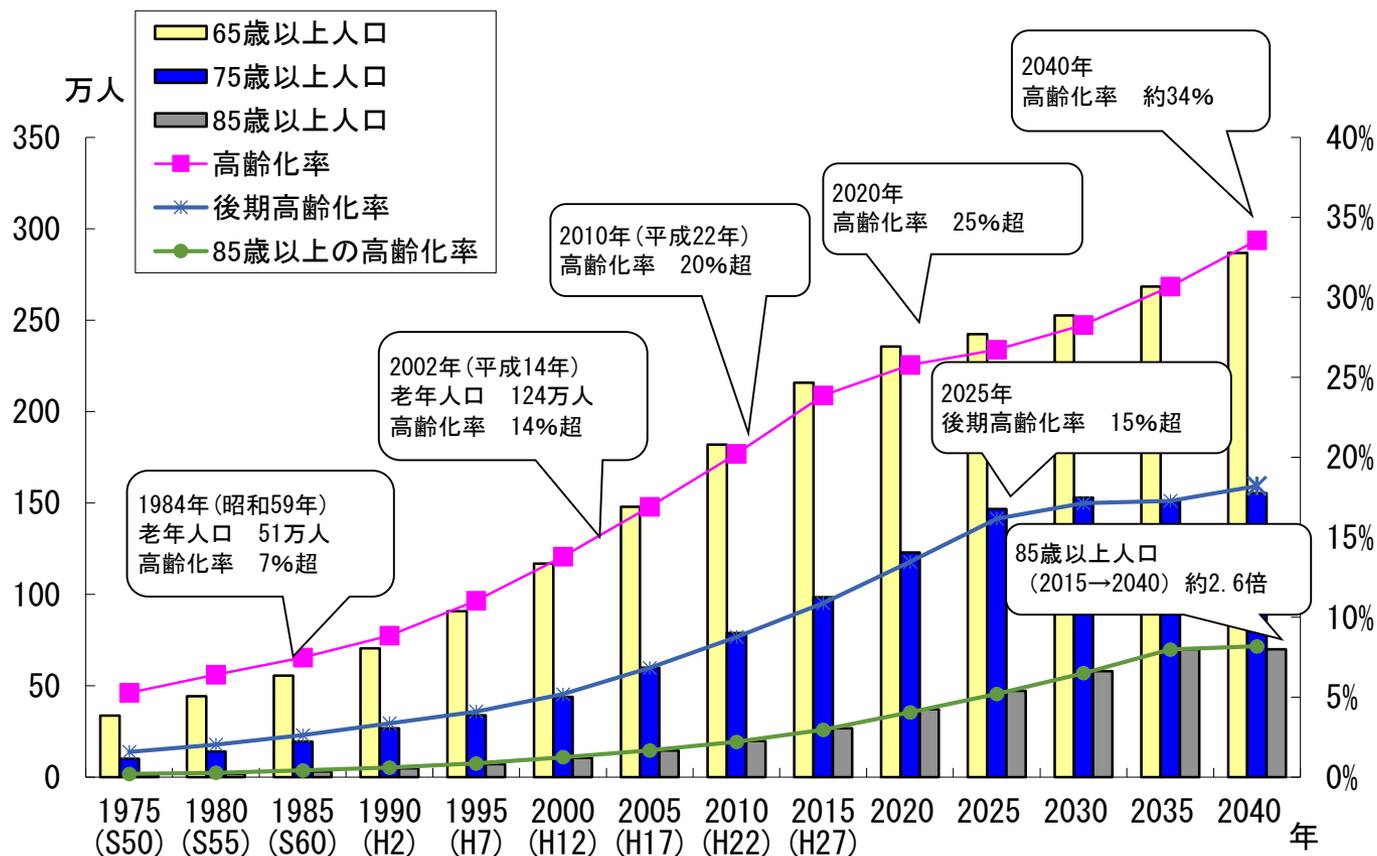
注2 2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所による推計。

神奈川県  
認知症の人と家族を支えるマーク



# 高齢者の急速な増加

## 本県における高齢化の推移



かながわ高齢者保健福祉計画(第8期 令和3年度～令和5年度)より

注1 2015(平成27)年までは、国勢調査による。

2 2020年以降は、国立社会保障・人口問題研究所による推計。

神奈川県  
認知症の人と家族を支えるマーク

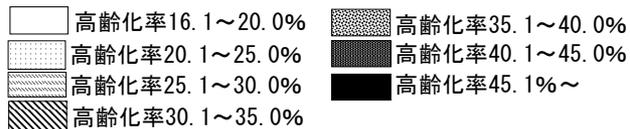
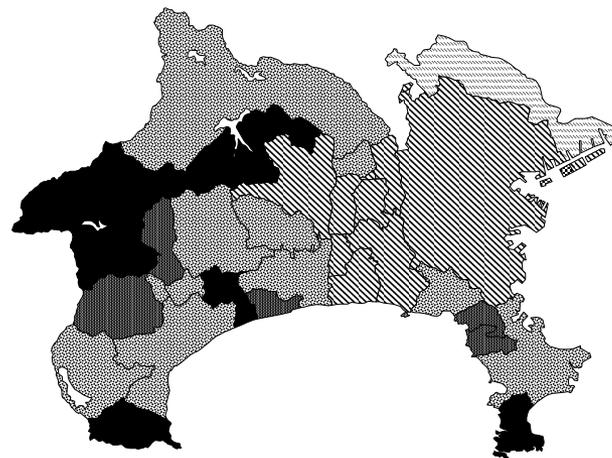
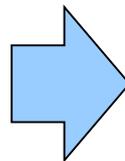
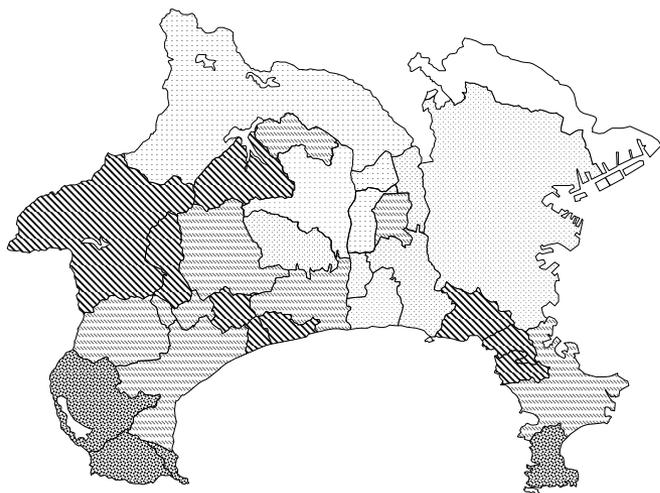


# 市町村別の高齢化率の推移

2015年度  
(平成27)  
23.9%

県内市町村別高齢化  
率の推移  
25年後

2040年度  
33.6%



出典：かながわ高齢者保健福祉計画(令和3～5年度)

神奈川県  
認知症の人と家族を支えるマーク



# 認知症高齢者の増加

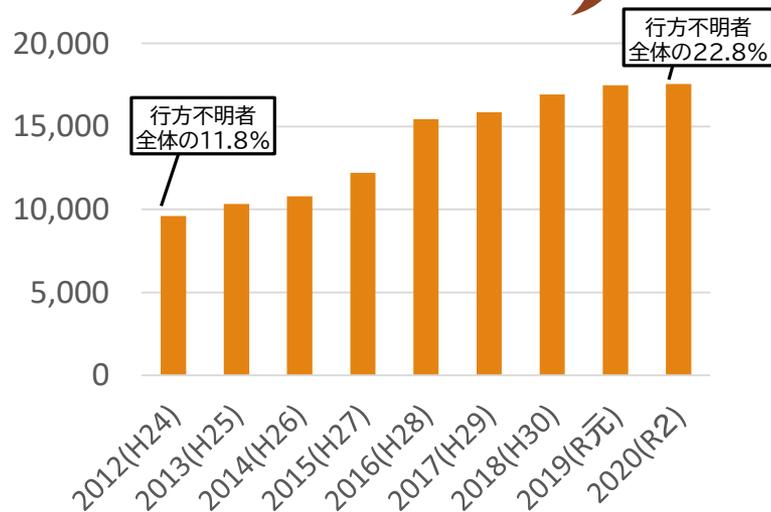
認知症高齢者の増加

高齢者の  
5人に1人が認知症に  
コロナ禍の加速懸念



認知症行方不明者の増加

警察への  
行方不明者届件数  
が過去最多

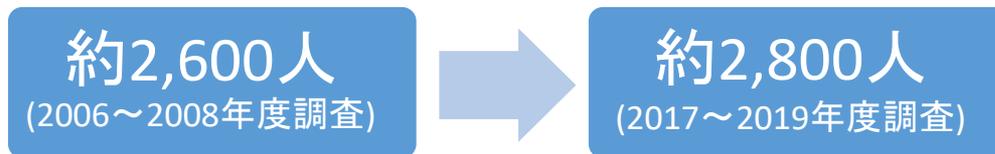


神奈川県  
認知症の人と家族を支えるマーク



# 若年性認知症の増加と課題

## 本県の若年性認知症の人の数



※令和2年発表：東京都健康長寿医療センターの研究による有病率から推計

- 認知症と気付かず**診断が遅れて、症状が悪化する。**
- 多くが現役で仕事や子育てをしているため、生活困窮、子供への影響など**深刻な状況**に陥りやすい
- 高齢者とは異なる課題を抱えるため、**診断の早期から、状態に応じた就労の継続や家族へのケア等の多様な支援につなげることが必要**

**若年性認知症の支援体制  
の充実・強化が重要！**

# 認知症施策推進大綱

令和元年6月18日決定  
(認知症施策推進関係閣僚会議)



## 【基本的考え方】

認知症の発症を遅らせ、認知症になっても、希望を持って日常生活を過ごせる社会を目指し認知症の人や家族の視点を重視しながら、  
**「共生」と「予防」※**を車の両輪として施策を推進

### ※1 「共生」とは・・・

認知症の人が、尊厳と希望を持って認知症と“ともに生きる” また、  
認知症があってもなくても同じ社会で“ともに生きる”という意味

### ※2 「予防」とは・・・

「認知症にならない」という意味ではなく、  
「認知症になるのを遅らせる」  
「認知症になっても進行を緩やかにする」

という意味

## 具体的な施策の5つの柱

### ① 普及啓発・本人発信支援

- ・企業・職域での認知症サポーター養成の推進
- ・「認知症とともに生きる希望宣言」の展開 等

### ② 予防

- ・高齢者等が身近で通える場「通いの場」の拡充
- ・エビデンスの収集・普及 等

### ③ 医療・ケア・介護サービス・ 介護者への支援

- ・早期発見・早期対応の体制の質の向上、連携強化
- ・家族教室や家族同士のピア活動等の推進 等

### ④ 認知症バリアフリーの推進

- ・若年性認知症の人への支援
- ・社会参加支援

- ・認知症になっても利用しやすい生活環境づくり
- ・企業認証・表彰の仕組みの検討
- ・社会参加活動等の推進 等

### ⑤ 研究開発・産業促進・国際展開

- ・薬剤治験に即応できるコホートの構築 等

認知症の人や家族の視点の重視

# 第8期かながわ高齢者保健福祉計画

(R3~5)

国

## 具体的な施策の5つの柱（大綱）

### ① 普及啓発・本人発信支援

- ・企業・職域での認知症サポーター養成の推進
- ・「認知症とともに生きる希望宣言」の展開 等

### ② 予防

- ・高齢者等が身近で通える場「通いの場」の拡充
- ・エビデンスの収集・普及 等

### ③ 医療・ケア・介護サービス・ 介護者への支援

- ・早期発見・早期対応の体制の質の向上、連携強化
- ・家族教室や家族同士のピア活動等の推進 等

### ④ 認知症バリアフリーの推進

- ・若年性認知症の人への支援
- ・社会参加支援

- ・認知症になっても利用しやすい生活環境づくり
- ・企業認証・表彰の仕組みの検討
- ・社会参加活動等の推進 等

### ⑤ 研究開発・産業促進・国際展開

- ・薬剤治験に即応できるコホートの構築 等

認知症の人や家族の視点の重視

県

## 認知症施策の取組（計画）

### ① 普及啓発・本人発信支援

- ・企業・職域での認知症サポーター養成の推進
- ・かながわオレンジ大使による本人発信支援 等

### ② 認知症未病改善

- ・コグニサイズの普及・定着
- ・認知症機能の評価に関する研修 等

### ③ 医療・ケア・介護サービス・ 介護者への支援

- ・認知症疾患医療センター
- ・初期集中支援チーム員、医療従事者、介護職員等の研修
- ・神奈川県認知症対策推進協議会
- ・コールセンター設置、相談・訪問支援
- ・リモート認知症カフェ応援事業 等

### ④ 認知症バリアフリーの推進

- ・地域支援体制の強化
- ・若年性認知症の人への支援

- ・オレンジパートナーネットワークの促進
- ・「チームオレンジ」構築支援
- ・若年性認知症支援コーディネーター 等

認知症の人や家族の視点の重視





# 認知症基本法の概要(目的、責務、基本理念)

## 目的

認知症の人が尊厳を保持しつつ希望を持って暮らすことができるよう、認知症施策を総合的かつ計画的に推進

認知症の人を含めた国民一人一人がその個性と能力を十分に発揮し、**相互に人格と個性を尊重しつつ支え合いながら共生する活力ある社会(=共生社会)の実現**を推進

## 責務

○国・地方公共団体は、基本理念にのっとり、認知症施策を策定・実施

(努力義務)

**都道府県：都道府県計画を策定**

市町村：市町村計画を策定

「基本計画」(国に策定義務)

地方の実情

○国民は、共生社会の実現を推進するために必要な認知症に関する正しい知識及び**認知症の人に関する正しい理解**を深め、共生社会の実現に寄与(努力義務)

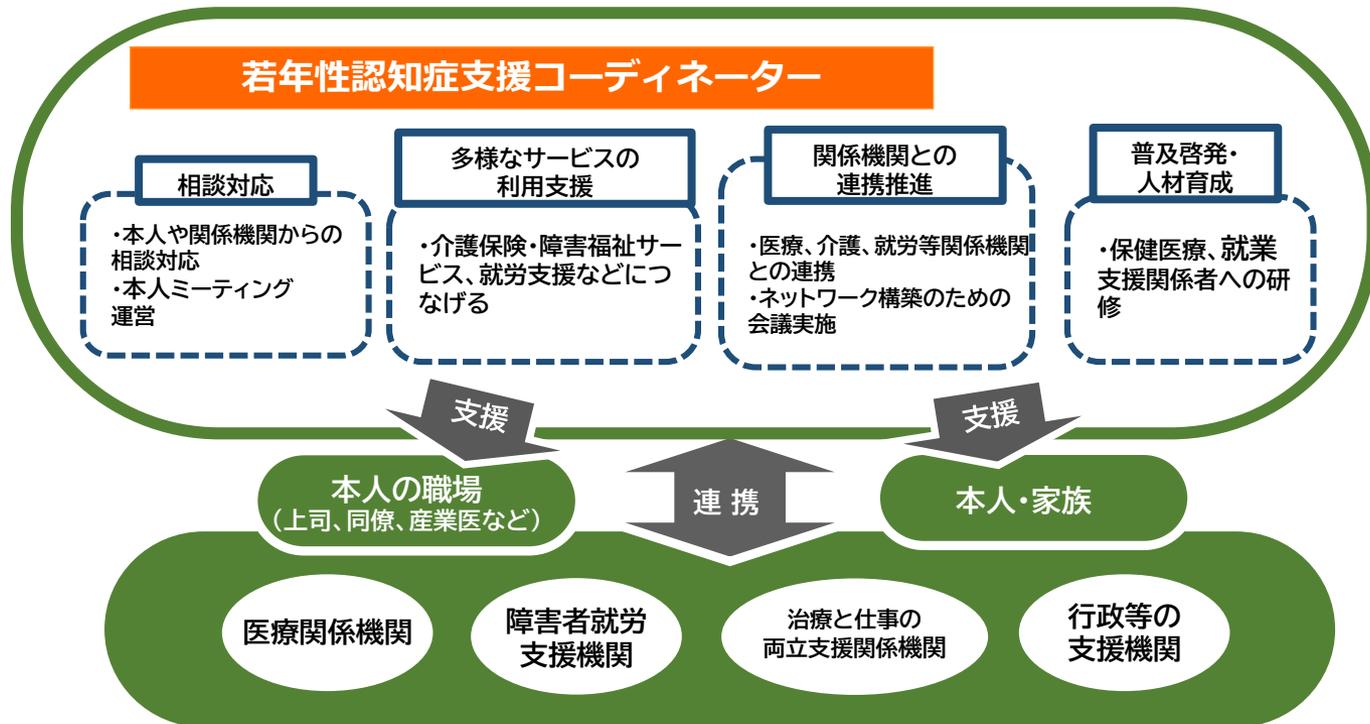
## 7つの基本理念(一部略)

- ①…認知症の人が、**基本的人権**を享有する個人として、自らの意思によって…生活を営むことができる。
- ②国民が…認知症に関する正しい知識及び**認知症の人に関する正しい理解**を深めることができる。
- ③認知症の人にとって…障壁となるものを除去することにより、…社会の対等な構成員として…**意見を表明する機会**及び…**活動に参画する機会の確保**を通じてその**個性と能力を十分に発揮**することができる。
- ④良質かつ適切な…サービスが切れ目なく提供
- ⑤…**家族等に対する支援**
- ⑥共生社会の実現に資する研究等を推進…科学的知見に基づく研究等の成果を…享受できる環境を整備。
- ⑦教育、地域づくり、雇用、保健、医療、福祉その他各関連分野における総合的な取組として行われる。

## 基本的施策の概要

- ① 認知症の人に関する国民の理解の増進等
- ② 認知症の人の生活におけるバリアフリー化の推進
- ③ 認知症の人の社会参加の機会の確保等
- ④ 認知症の人の意思決定の支援及び権利利益の保護
- ⑤ 保健医療サービス及び福祉サービスの提供体制の整備等
- ⑥ 相談体制の整備等
- ⑦ 研究等の推進等
- ⑧ 認知症の予防等

# 若年性認知症の支援体制の充実・強化



# 若年性認知症支援コーディネーター

---

若い世代の方が、認知症になった場合、就労のことや、経済的なことが問題となります。

適切な支援を受けられるように、“若年性認知症支援コーディネーター”を配置し、個別に相談を受けたり、訪問等により支援します。

また、若年性認知症の方の支援方法について、理解を促したり、関係機関の連携等について、普及啓発やネットワーク作り等の研修を実施します。

神奈川県  
認知症の人と家族を支えるマーク



# 若年性認知症支援コーディネーター

- **国立病院機構 久里浜医療センター（地域医療連携室）**  
☎046-848-2365（直通） 月～金曜 8:30～17:15  
担当エリア：横須賀・三浦、湘南東部
- **曽我病院（医療福祉相談室）**  
☎0465-42-1630（代表） 月～金曜 9:00～17:00  
担当エリア：相模原、県央、湘南西部、県西
- **湘南東部総合病院（医療社会サービス部）**  
☎0467-83-9091（直通） 月～土曜 9:00～17:00  
担当エリア：湘南東部、県央
- **横浜ほうゆう病院（地域医療連携室 若年相談窓口）**  
☎045-360-8787（代表） 月～金曜 9:30～15:30  
担当エリア：横浜
- **横浜市立大学附属病院（認知症疾患医療センター）**  
☎045-787-2852（直通） 月～金曜 9:00～17:00  
担当エリア：横浜
- **横浜市総合保健医療センター診療所（総合相談室）**  
☎045-475-0105（直通） 月～金曜 9:00～16:00  
担当エリア：横浜
- **横浜総合病院（若年性認知症相談窓口）**  
☎045-903-7106（直通） 月～金曜 9:00～17:00  
担当エリア：横浜
- **川崎市若年性認知症サポートデスク NPO法人 マイWay**  
☎044-400-7060（直通） 月～金曜 9:00～16:00  
担当エリア：川崎

いずれも祝日、  
年末年始を除く



# 認知症オレンジパートナーネットワーク ウェブサイトを開設しています！



認知症  
オレンジパートナーネットワーク  
ORANGE PARTNER NETWORK



つながることで  
認知症と共に生きる

このサイトでは、個人ボランティアと  
ボランティア活動の場のマッチングを行うほか、  
認知症ご本人の新たな就労先や活動場所を探すことができます。

👉 オレンジパートナーネットワークとは 📄

## 新着情報

2023年3月30日 お知らせ  
ホームページをリニューアルいたしました。

@orangepartner\_kさんのツイート



認知症オレンジパートナーネットワークウェブサイトを更新しました！  
今後は次のサイトをご活用ください！  
[pref.kanagawa.jp/osirase/1393/ose/](https://pref.kanagawa.jp/osirase/1393/ose/)

ボランティア  
活動する場所を  
探したい！

色々な人と  
意見交換を  
したい！

様々な  
活動の場を  
探したい！

詳しくは・・・

認知症 オレンジパートナー

検索

このサイトでできること



神奈川県  
認知症の人と家族を支えるマーク



# 若年性認知症 普及啓発リーフレット を作成しました！

若年性認知症の方の

- ・就労継続や、多様な働き方
- ・ボランティア活動なども含めた居場所
- ・介護サービスや障害福祉サービスなど

利用できる制度等を、ご本人、市町村、福祉・医療機関、企業や雇用関係機関等の皆様に広く周知することを目的としています。


もしかして  
若年性認知症??  
記憶に不安を感じたら

若年性認知症とは

「若年性認知症」とは、65歳未満で発症した認知症のことです。  
若年性認知症の方は仕事、家事、子育て世代に発症することが多く、現役で働いている場合、若年性認知症を理由に退職してしまうと、経済的に困ってしまいます。しかし、退職前に若年性認知症支援コーディネーターに相談することで、仕事を継続できる可能性があります。

神奈川県の取組

神奈川県では、若年性認知症の人やその家族等の相談に対応し、支援に携わる者同士のネットワークの調整を行う、若年性認知症支援コーディネーターを配置しています。  
ご本人やご家族等からの若年性認知症に関する困り事や悩み事等の相談に対して、解決に向けた支援をします。



**神奈川県内の若年性認知症支援コーディネーター相談先**  
※受診していなくても、相談することができます。

名称	担当エリア	電話番号
国立病院機構久里浜医療センター	横須賀・三浦	046-848-1550 (代表)
曾我病院 (福祉医療相談室)	相模原、湘南西部、県西	0465-42-1630 (代表)
湘南東部総合病院	湘南東部、県央	0467-83-9111 (代表) 0467-83-9091 (医療社会サービス部)
横浜ほうゆう病院 地域医療連携室 若年相談窓口	横浜	045-360-8787 (代表)
横浜市立大学附属病院 認知症疾患医療センター	横浜	045-787-2852 (直通)
横浜市総合保健医療センター 診療所 総合相談室	横浜	045-475-0105 (直通)
横浜総合病院 若年性認知症相談窓口	横浜	045-903-7106 (直通)
川崎市若年性認知症サポートデスク	川崎	044-400-7060 (直通)

若年性認知症支援コーディネーターの連絡先等詳細はこちら 

神奈川県HP認知症の相談窓口 

# 第2期「かながわオレンジ大使」（認知症本人大使）が 決定しました！



多くの県民の皆様にも、認知症について理解していただくため、県では、認知症の方ご本人が思いを直接伝え、その人らしい活動を発信する「かながわオレンジ大使」（認知症本人大使）を創設し、12名の方に委嘱しました。

## <委嘱期間>

令和5年5月9日～令和7年3月31日

## <活動内>

- ◆ イベント等でのパフォーマンス ◆ 動画への出演
- ◆ 広報誌への寄稿 ◆ 作成した美術・文化作品の紹介
- ◆ 講演等（インタビュー形式なども含む）
- ◆ 「かながわオレンジ大使」事業の企画・運営 など

## <要件>

- 1 県内在住であること
- 2 認知症の診断を受けていること
- 3 認知症の普及啓発活動に意欲があり、県と協力・連携ができること
- 4 氏名・年代・所在市町村名・疾患名・経過・略歴・顔写真を原則、公表できること（公表できない理由がある場合はその限りではありません。）



神奈川県  
認知症の人と家族を支えるマーク



# 認知症サポーターとは？

---

認知症について正しく理解し、偏見を持たず、認知症の人やその家族を温かく見守る「応援者」です。

認知症は誰でもなる可能性があり、「自分自身の問題でもある」という認識を持つことが大切です。



# 認知症サポーター養成講座を 受けましょう

申込みは、市町村の  
認知症担当課へ

小中高生・看護学生・警察官・県職員・生命  
保険会社・一般企業などの方々が受講してい  
ます。

県内 **782,315人** (R5.6.30現在)



これから着実に高齢化は進んでいきます。  
ぜひ、あなたの周りで、認知症の人の意思が尊重  
され、できる限り住み慣れた地域の良い環境で自分  
らしく暮らし続けるにはどうしたら良いか、  
職場や地域で考えてみてください。

ご清聴ありがとうございました



神奈川県  
認知症の人と家族を支えるマーク



# かながわ未来共創プラットフォーム 【認知症とともに生きる社会づくり】

---

神奈川県いのち・未来戦略本部室 未来創生G

かながわ未来共創プラットフォームチーム

2023.10.24 v1.0

# かながわ未来共創プラットフォームの概要

# 1 「かながわ未来共創プラットフォーム」とは

かながわ未来共創プラットフォームとは（課題のオープン化による多様な主体との連携）

県民ニーズが複雑化・多様化する中、**行政だけで対応することが困難な様々な課題**について、企業・大学・団体・NPO等多様な主体がそれぞれの強みを活かし、県と企業等が**協働・連携して**社会的課題を解決します。



## 県との協働・連携による効果

- 開発している**技術等の実証実験**を行う場合の**県内フィールドの調整・提供**
- 事業化・製品化に向けた**他企業等との連携**
- 事業化・製品化した場合の**PR**
- 提示した社会課題に取り組むことで、**新たな市場を開拓**できる可能性がある

※ただし、県からの財政的支援はありません。

## 2 オープンしている課題

課題		目指す方向
①	子ども食堂への支援体制の確立	子ども食堂が必要とする物資を寄付によって集め、保管及び届ける仕組みを構築することで、 <b>持続可能な地域社会</b> を目指す！
②	日常における移動の不自由の解消	交通空白地域の居住者や免許を返納した高齢者の外出機会を増やし、健康づくりや社会参加を促すことで、 <b>地域の暮らしを生き生きと</b> ！
③	効果的・効率的な野生鳥獣対策の実施	人的な対応に加えて、 <b>ICTを活用し、効果的かつ効率的な野生鳥獣対策</b> で安全・安心な里山集落へ！
④	認知症とともに生きる社会づくり	認知症当事者などの <b>困りごと</b> を解決できる商品・サービスが普及することで、住み慣れた地域で <b>安心して暮らし続けられる社会</b> へ！
⑤	生活困窮者へ必要な情報を届ける	<b>通信機器を持たない方たちや外国につながりのある方々へ</b> 必要な情報を伝達する手段を確保！
⑥	生活困窮者支援	<ul style="list-style-type: none"> <li>日々の生活に<b>必要な物資</b>をお届けする。</li> <li><b>社会との接点や社会参加の機会</b>を提供する。</li> </ul>
⑦		より多くの人に支援が行き届くよう <b>活動のための場所</b> を確保し、 <b>かつ専門的人材による支援</b> を行えるよう、 <b>団体をサポート</b> ！

# 課題 認知症とともに生きる社会づくり



## 課題

認知症当事者やその家族が住み慣れた地域で安心して暮らし続けるため、日常生活における負担の軽減や地域での持続可能な支援が必要

Before



認知症当事者の日常生活における困りごとへの理解が進んでおらず、本人や家族向けの支援も不十分。

After



認知症当事者などの困りごとを解決できる商品・サービスが普及することで、住み慣れた地域で安心して暮らし続けられる社会へ！

### 【困りごとの具体例】

- ・乗り換える駅を忘れてしまう
- ・予定している時間を間違えたり、忘れてしまったりしてしまう
- ・便利なアプリやサービスがあっても使い方がよく分からない
- ・働く意欲や技術を持っていても、働ける場所がどこにあるのか分からない
- ・働く場所に行くことが難しい

### いただきたい提案の例



#### 認知症当事者や家族等向けの支援

(例)認知症当事者の位置情報や、スケジュール等を一元的に家族や支援者間で共有できるアプリなど



#### 地域全体で支援する仕組みの構築

(例)通勤等の移動に課題を抱える方への送迎等の人的支援、ボランティアのコミュニティ形成用・情報交換用のツール



#### 認知症当事者向けの就労支援

(例)認知症当事者のできる仕事や能力を可視化し、マッチングさせるサービス

※あくまで一例のため、これに限らず幅広い提案をお待ちしています。

# 連携概要

---

### 3 連携概要（GrASP株式会社 認知症対応型通所介護）

#### 1 団体概要

所在地：横浜市青葉区鉄町15-5-1F（青葉事業所）

横浜市旭区白根5-16-20（旭事業所）

主な事業：介護保険事業、自費事業

- ①ソーシャルフェーズ 認知症初期（要支援・要介護1～2）「仕事」に携わる
- ②エンジョイフェーズ 認知症中期（要介護1～3）「趣味」を通じて社会参加
- ③ベーシックフェーズ 認知症後期（要介護3～5）「暮らし」を通じて社会参加

#### 2 課題解決に向け連携して取り組みたいこと

- ◆ 若年性認知症当事者の方が、今の能力に見合った「はたらく場」に出会うことで社会に所属する実感や自己実現を果たすことで、認知症とともに生きる社会づくりを目指す。
- ◆ **県内の各地域で若年性認知症の方が活躍できる場（はたらく場）を増やしたい<有償ボランティア>**

## 3-1 「はたらく場」 (有償ボランティア) の創出【GrASP(株)の取組】

【課題背景】 —認知症の「2つの空白期間」—

空白期間Ⅰ：認知症の違和感を覚えてから(疑い)、鑑別診断(確定)に至るまでの期間 平均13.35か月

空白期間Ⅱ：診断から介護保険サービスの利用に至るまでの期間 平均16.93か月

**若年性に限った場合、更に活動拠点と出会うハードルが高まり、空白期間が拡大する傾向が示唆される**

拡大する空白期間を減らし、どのような容態であっても切れ目ない支援を行うため、今の能力に見合った「はたらく場」と出会うことで、**社会に所属する実感や自己実現を果たし**、認知症とともに生きる社会づくりを目指す。

(現状)

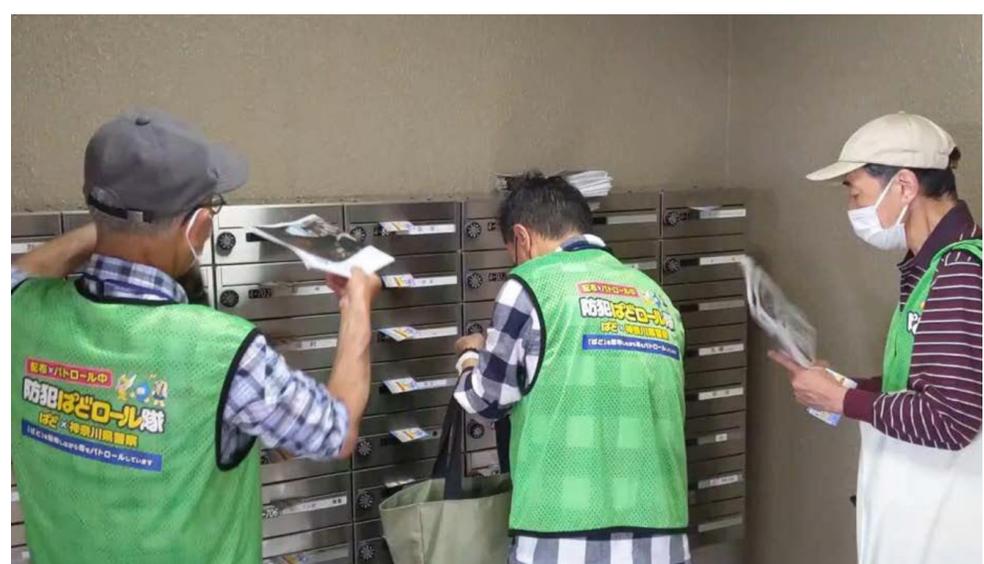
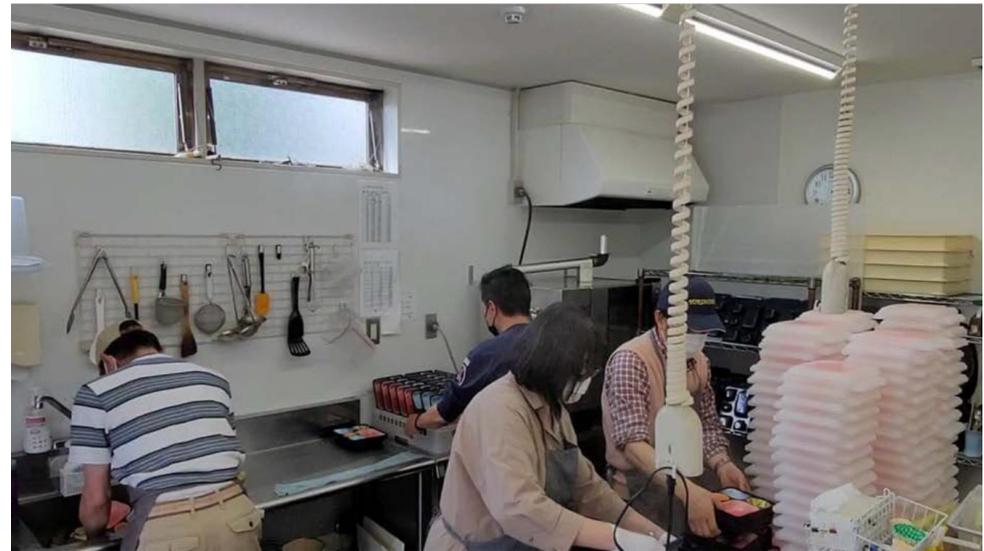
- 横浜市内の事業者8社と業務提携を行っており、さらに「はたらく場」(有償ボランティア)を創出するため、企業等にアプローチをしているが、なかなか連携が難しい。

行っている  
作業



人から頼りにされる、有用感を感じるきっかけに(謝礼として500円~12,000円)

### 3-2 「はたらく場」 (有償ボランティア) の創出【実際に働く様子】



### 3-3 「はたらく場」 (有償ボランティア) の創出【苦手なこと】

## 私たちの苦手なこと —サポートの必要性— (若年性認知症)

記憶



記銘・保持・早期

判断



見分ける・洗濯する

完璧



ノームス・緊張

スピード



期限・大量

複雑



頭脳労働

私たちに完璧な仕事は難しいです。  
(若年性認知症)

でも、スタッフと一緒に考えて改善することはできます。



ある企業様からのお言葉

ある企業様からのお言葉「GRASPさんのおかげで業務改善に繋がりました」とお褒めの言葉をいただいたことがあります。

## 4 終わりに

「はたらく場（有償ボランティア）を提供できるかもしれない！」  
そう感じたSDGsパートナーの皆さま、お気軽にお問い合わせください！



### 問合せ先



神奈川県政策局いのち・未来戦略本部室 未来創生グループ  
「かながわ未来共創プラットフォーム」担当

045-285-0710（直通）